

# 令和3年度 第6回 津有区地域協議会 次 第

日時：令和3年10月25日(月) 午後6時30分～  
会場：津有地区公民館 大会議室

延べ55分

## 1 開 会

【2分】

## 2 議 題

(1) 協議事項 【20分】

- ・「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について

(2) 自主的審議事項 【30分】

- ・津有区の特長を生かした地域活性化策について

## 3 その他

(1) 次回開催日の確認等 【3分】

- 日時 : 11月 日 ( ) 午後6時30分から
- 会場 : 津有地区公民館 大会議室
- 内容 : 自主的審議

(2) その他

## 4 閉 会

## 【津有区】「地域協議会での検討について」（私の意見） 集約結果

- 「地域協議会に関する意識調査結果」を受けた、津有区地域協議会での取組についての各委員の意見をまとめました。
- この集約結果は、津有区地域協議会の運営や、市全体の会長会議での参考とします。

## ア 意見交換について

問：住民組織などとの意見交換を

- ①一層活性化していく（8名）      ②現状維持で良い（3名）      ③その他（0名）

①、②、③のいずれかを○で囲んでください。また選んだ理由や具体的な案があれば以下の欄に記入してください。

主な意見

- ・すでに町内会長会との情報交換会を実施し、いただいた情報を基に、自主的審議のテーマ設定に活かすことができている。
- ・過去約2年間、住民組織と意見交換をしていないため、今後は定期的に行ってはどうか。
- ・地域課題を理解し、解消に向かうためには、多くの地域団体との意見交換や情報共有が必要だと思う。委員のみの考えや思いではなく、たくさんの意見・情報を共有し合っこそ、解消に向かうことができると思う。
- ・津有区の特徴を活かした活動を模索する上では、津有区まちづくり協議会や区内小中学校はじめ関係機関や地域活動支援事業応募団体等との情報交換を今後も密にしていく必要を感じている。
- ・地域には諸団体があり、個々の中での問題点を話し合うのもよいが、まずはそれぞれの団体の代表者数名で会を持ち、お互いの抱えている問題等を共有し合っはどうか。
- ・時間が取れば、各団体の活動を詳しく聞いてみたい。
- ・地域協議会としてあまり間口を広げると、会の役割を逸脱するのではないかと懸念している。

## イ 会議運営について

問：会議運営（開催日時、回数など）や進行方法（視察や研修、発言の機会、分科会など）について、以下の欄に記入してください。

## ○会議運営（開催日時、回数など）について

現状維持の意見

- ・開催日時については、参加委員の同意を得て日程を決めているため、現状でよいと思う。
- ・回数については、月1回でよい。1回以上に回数を増やすのは負担が多すぎると思う。
- ・全ての課題の解消はできないと思うので、現在の会議運営でよいと思う。（解消できそうな課題に取り組んではどうか。）
- ・月1回、開催日時がほぼ定期的なので、予定が立てやすかった。
- ・会議回数は増やしてもよいと思うが、委員の負担が増え、都合のつかない回数が増える人もいると思う。

改善の意見

- ・開催曜日は土・日曜日のほうがよいと思う。
- ・協議内容によって日時の変更や時間の延長が必要だと思う。

- ・発足当時、毎月月末の月曜日に開催することを確認して進めてきた。1年半が経過した現在、開催日時について中間評価し、検討する必要があるかも知れない。

## ○進行方法（視察や研修、発言の機会、分科会など）について

### 現状維持の意見

- ・現状でよい。(2名)
- ・常に意識し、工夫に努めているように思う。
- ・会議の進行が上手く、毎回感心している。
- ・視察は実施していないが、研修は行っており有益であったとの評価を得ている。今後も継続して実施したい。
- ・発言の機会について、進行役として特定の委員のみの発言に偏ることなく、参加者全員が発言する場面設定を心掛けており、合意形成に努めているつもりである。
- ・グループに分かれて協議する場面を数回持ち、各グループの話合い内容について情報共有する場面設定に努めてきた。今後も、このような方向で会議運営を進めたい。

### 改善の意見

- ・視察や研修の実施は不可欠だと思う。
- ・議論に必要な情報を得るための研修は、委員として大変勉強になるので実施してほしい。
- ・内容によって分科会・グループワーク等の話し合いの場を設け、委員が発言しやすい雰囲気が必要。
- ・発言は委員の責務ではなく、発言のしやすい運営をするのが望ましい。それには小規模な話し合いの場を設けることが必要ではないか。

## ウ 情報発信について

問：情報発信（主に地域協議会だより）についてのご意見を以下の欄に記入してください。

### 現状維持の意見

- ・現状でよい。(3名)
- ・事務局により定期的にたよりが発行され、各町内会に回覧されている。地域活動支援事業の採択状況、自主的審議の進捗状況も掲載されていてよいと思う。

### 改善の意見

- ・地域協議会の採択事業案件のみでなく、町内の抱えている課題や構想案なども町内会(長)との連携が必要。地域協議会委員は地域の専門家とは限らない。
- ・協議会について「何をしているか分からない」と言われる可能性もあるため、情報発信は必要。
- ・本組織の存在と活動内容を理解されている方は、まだごく少数だと思う。もっと周知されるようアピールが必要。関心がなければ、文章を読んで終わりになってしまう。
- ・資料の「ウ-2」の「市が検討した取組案」のとおり改善すればよい。
- ・事業を行った各種団体の意見や感想等を協議会だより等に記載し、より多くの人に協議会の理解を得る。
- ・たよりの宿命として、伝達側からの一方的な情報提供に限られてしまうことは否めない。情報の双方向性を考えると工夫が必要かも知れない。アンケートでは回答者側の興味・関心の度合いに左右される面がある。SNSなどICTの活用も考えられるが、今後の課題である。

## 前回の協議会（R3.9.27）の振り返り

勉強会の  
振り返り



今後の進め  
方を検討

- ・前島密翁の功績を、もっと多くの人に知ってほしい。
- ・もっと勉強してみたい。
- ・地元の人でも、知っているようで知られていない印象がある。
- ・子どもたちに「こういう偉人がいた」ということをしっかり伝えていきたい。
- ・少なくとも津有区民は、前島密翁を語れるようになってほしい。
- ・上越市民にとって「上越の宝」との意識を持ってほしい。
- ・各学校にどのくらいの寄付があったのか、記録を見てみたい。

会合

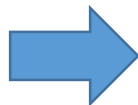
提案 B

深掘り

【前島密】

関連団体と意見交換会

団体の活動状況や思いを知るとともに、地域協議会としての関わり方を考える。



前島密翁の関連団体と接点を持ちながら、深掘りしていき、提案Cの方向に進んでいければよい。

広報

提案 C

方向性

【前島密】

功績をまとめ地域へ発信

前島密翁の功績をまとめたリーフレット等を作成・配布し、住民の認知度を高める。

発展

遠くのゴールとしては、「津有区のよさ」ということに視野を広げ、三郷区の事例のような、分かりやすいマップができるとうい。

広報

提案 D

方向性

【地域の良さ】

地域の魅力マップを作成

津有の魅力をもとめたマップを作成・配布し、住民が地域の良さを再認識できるようにする。

関連団体との意見交換の前に・・・

- ・いきなり関連団体と意見交換するのでは太刀打ちできないため、まずは今ある資料を確認することから始める。
- ・小学校や中学校にどのような資料が保存されているか確認しに行く。
- ・過去に公民館で作成した「歴史マップ」を確認する。

## 津有地区 学校訪問まとめ

前回の第5回地域協議会(9月27日(月))において、「自分たちでも入手できる前島密翁に関する情報を集める」「小学校や中学校に保存されている前島密翁に関する資料を確認したい」という意見があったことから、10月8日(金)に、正副会長・事務局2名・利根川館長の5名で、戸野目小学校・上雲寺小学校・雄志中学校を訪問し、各校長先生からお話を伺ってきました。

## 戸野目小学校

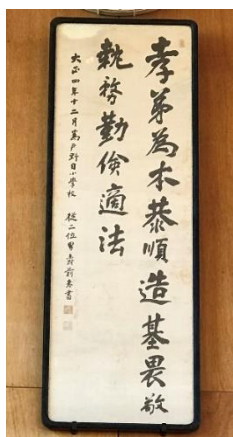
戸野目小学校には、前島密翁から寄贈された自筆の書2点が保管されていました。密翁が学校に多額の寄付をしたという記録は見つかりませんでした。昭和61年に発行された副読本「ふるさと戸野目」や学校沿革史等の貴重な資料をお見せいただきました。

校長先生とのお話では、津有地区は密翁のみならず、結核予防の先駆者である柳沢謙先生など、学ぶべき偉大な先人を多く輩出している素晴らしい地域だということを確認することができました。



扁額「惇信明義」

あつく信ずる心が、義を明らかにする。  
(密翁74歳の時に寄贈された。)



扁額「孝弟為本恭順造基畏敬」

親に孝行し、年長者に従うは根本であり、命に謹んで従うは土台である。畏敬の念をもって職務を果たし、勤勉に仕事をし、節約すれば、のりになう。

(密翁80歳の時に寄贈された。)



肖像写真「前島密先生」

その他資料「戸野目小学校のあゆみ」→

戸野目小学校のあゆみ

↓その他資料「ふるさと戸野目」

した。  
明治四十二年には、三崎校長先生が、南浦原郡の役所に勤めることになり、そのあとに、能村竹次郎という校長先生が着任しました。この年に校舎の改築が行われました。そのころのお金で二万円あまりをかけた。そのころの校舎が、さあがりました。そのときのお祝いに、前島密翁さんから「惇信明義」の書をいただきました。ちょうど、この年は高田の城あとに、二千本のさくら木が植えられた年でもありました。  
明治四十三年に、戸野目小学校は、学校

## I 沿革

〔明治〕

- 明治6年10月16日 戸野目蓮休寺を仮校舎として誕生。児童数二百余名。
- 明治7年 四ヶ所(現在津有分館のある所)に新校舎できる。校名 四ヶ所小学校。桐原分校できる。
- 明治11年 池部分校できる。
- 明治13年 上野田分校できる。
- 明治15年 現在地に戸野目小学校が移転。桐原、上野田分校廃止。
- 明治26年 高等科がおかれる。戸野目尋常高等小学校となる。
- 明治31年 荒屋に第1分場、四込に第2分場ができる。
- 明治41年 校舎改築 費用2万円。祝に前島密より直筆「惇信明義」の書寄贈。
- 明治42年 欠席する子どもが少ないことで県知事より賞金授与。

〔大正〕

- 大正元年11月13日 実業補習学校を設置
- 大正元年12月17日 開校式
- 大正2年8月17日 女子部開設
- 大正4年 校舎増築。祝に前島密より直筆「孝弟は本と為り」の書寄贈(前島 80才)
- 大正11年 学校創立50周年 校歌ができる。
- 大正11年11月27日 戸野目実業補習学校を戸野目農業補習学校と改称
- 大正12年10月25・26日 県主催小学校指導会開催

## 上雲寺小学校

上雲寺小学校では、密翁の書 1 点が保管されていました。児童玄関の壁に、肖像写真とともに掲示されており、このほかに、「前島密を讃えて」という歌の歌詞も掲示されていました。

同校では、38 年もの間校長を務められた初代校長の中村先生について主に学習しているため、密翁との接点があったかどうかということも話題になりました。



扁額「苦種生甘実」  
苦い種から甘い実が生まれる。  
＝苦難に耐えて良い結果が出る。  
(密翁 74 歳の時の書。)



肖像写真

## 雄志中学校

雄志中学校は、小学校と比べて歴史が浅いため、密翁に関する資料は少ないのですが、平成 31 年に同校で発見された密翁の掛け軸 1 点が、現在も校長室に保管されています。

校庭には胸像が立てられているほか、玄関には津有地区の偉人（前島密、芳澤謙吉、川上善兵衛）を紹介するコーナーがありました。



胸像「文明の父 前島密翁像」